

2024年度久万美コレクション展

新たな 一歩

愛媛現代
美術家集
団の軌跡

Takashina

Shigeki



高階重紀

《作品(15)》1960年、町立久万美術館蔵(寄託)

2024 2025
12/21[±] ▶ 4/20^日

開館時間 9:30~17:00(入館は16:30まで)

休館日 月曜日(ただし2025年1月13日、2月24日は開館)、
2024年12月29日(日)~2025年1月3日(金)、14日(火)、
2月12日(水)、25日(火)

観覧料 一般500(400)円、高大生400(320)円、小中生300(240)円

※()内は20名以上の団体料金

※高齢者(65歳以上)、障害者手帳をお持ちの方は証書・手帳等の提示で半額。身体障害者手帳提示の場合、付添い1名も半額。

岡本鉄四郎

《塔A》1958年、町立久万美術館蔵



Okamoto Tetsushiro

 町立久万美術館

〒791-1205

愛媛県上浮穴郡久万高原町菅生2番耕地1442-7

Tel.0892-21-2881 Fax.0892-21-1954

<https://www.kumakogen.jp/site/muse/>



三輪俊助

《植物の陰》制作年不明、町立久万美術館蔵

Miwada Shunsuke

新たな 一歩

愛媛現代
美術家集
団の軌跡

1965年、新しい一歩を踏み出すべく、立ち上がった美術団体が愛媛にあります。高階重紀(1912～84年)、岡本鉄四郎(1915～98年)、三輪田俊助(1913～2015年)らが結成した愛媛現代美術家集団(通称・現美)です。戦後、文化復興の拠点として、美術作品を広く受け入れてきた愛媛県美術会(1952年設立)が主催する県展は、アカデミズム的な傾向やマンネリ化が目立ち、県展以外に発表の場を求める声も高まってきます。こうした動きの中から、「地方的自己満足の泥沼におちいる事なく勇敢に行動をおこす」という高階の宣言により、現美が結成されたのです。県展の具象絵画に対して、現美は抽象表現を志向しました。1971年、愛媛造形作家協会が結成され、先駆的な活動が始まる前段階の動向として注目されます。

ところで、現美の結成大会には、現代画廊(東京・銀座)の経営者であり、久万美術館ともゆかり深い美術評論家の洲之内徹(1913～87年)や田都画廊(松山・大街道)の経営者・坂本忠士(1918～93年)らが参加しました。洲之内は、避けられないであろう県展との対立を気にしつつ、団体の発展を祈る文章を愛媛新聞に寄せています。というのも、洲之内は戦前、岡本、三輪田らと共に、反県展・反アカデミズムを主張する青年美術家集団を結成し、県展の中心人物であった藤谷庸夫(1896～1962年)と論争を繰り広げた経緯があったのです。

1989年3月に開館した町立久万美術館は、2024年3月に開館35周年を迎えました。現美、青年美術家集団に参加した作家のほか、坂本氏の田都コレクションを紹介します。愛媛の美術文化の一時代を振り返り、将来に向けて一歩を踏み出す試みです。

その他、村山槐多《裸婦》や萬鉄五郎《T子像》といった久万美術館を代表する作品に加え、洲之内が経営していた『現代画廊』で個展を開催した作家について、収蔵品の中から紹介します。また、陶磁器のコーナーでは、よく知られている白磁に呉須で染付された砥部焼の他に、古砥部と呼ばれる江戸時代の砥部焼や、色鮮やかな絵付けが特徴的な五松齋窯の作品、淡黄磁など砥部焼の変遷を辿ります。



▲上から村山槐多《裸婦》1915～16年／萬鉄五郎《T子像》1926年



◀左から長谷川利行《あのあ》1937年頃／古茂田美津子《遊園地》制作年不明／向井和平(向井黨・愛山黨)《淡黄磁龍耳獣足火鉢 一对》明治中期／佐藤哲三《みぞれ》1952年 すべて町立久万美術館蔵

関連事業 各事業の詳細、お申し込み方法については当館HPをご確認ください。

久万美でナイトミュージアム 美術館で天体観測! ★要予約、先着順
夜の美術館ようこそ! 昼間とは雰囲気の違いナイトミュージアムで、アートと天体観測を楽しんでみませんか?

日時・2025年1月31日(金) 18:30～19:30
対象・どなたでも(お子さまは保護者同伴でご参加ください)
参加費・美術館入館料(一般500円、高大生400円、小中生300円)
講師・久万高原天体観測館学芸員、当館学芸員
会場・町立久万美術館展示室・屋外 ※駐車場は物産館みどり前
持ち物・懐中電灯、暖かい服装

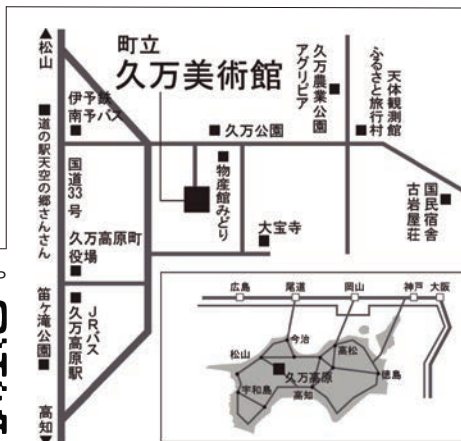
学芸員トーク ★予約不要
日時・2025年1月12日(日)、2月23日(日)、3月22日(土)
各14:30～
講師・当館学芸員
参加費・無料 ※要観覧券

久万美術館開館記念 無料開放デー&アート古書市 ★予約不要
1989年3月23日に開館したことを記念して「無料開放デー」と「アート古書市」を実施します。「アート古書市」とは図録や美術書を中心としたリサイクル図書の古書市です。古書市の書籍はご自由にお持ち帰りいただけます。
※書籍の売却、営利目的でのご利用はお断りしています。
※すべての書籍には「町立久万美術館」の押印や「リサイクル図書」のシールを貼付しています。
※お持ち帰り用の袋等は各自でご用意ください。

日時・2025年3月22日(土)、23日(日)
各9:30～17:00(入館は16:30まで)
対象・どなたでも無料
会場・町立久万美術館

くまびキッズプログラム～かぞくでアートじかん～ ★要予約、先着順
お子さんと一緒に美術館で作品鑑賞をしてみませんか? 学芸員が美術館でのマナーを説明するので、初めての方も安心してご参加ください。お子さんの感想を聞きながら、参加者全員で展覧会を鑑賞します。

日時・2025年3月15日(土)、4月19日(土)
各10:00～11:00
対象・3歳～6歳までの未就学児とその保護者
定員・5組程度
参加費・無料
講師・当館学芸員
会場・町立久万美術館展示室
※大きなお荷物はロッカーか受付にお預けください。
※当館では靴を脱いで入館していただけます。



【交通案内】
JRバス: 松山から70分(ほぼ2時間毎、土・日・祝運休あり)。予讃線松山駅から久万高原行「久万中学校前」下車徒歩約10分。
車: 松山市内から国道33号線で約50分、高知市内から約2時間。松山自動車道松山ICから国道33号線を高知方面へ約30分、久万中学校前交差点を左折、県道12号線(西条久万線)を0.8km東進、右側。

【駐車場】
45台(無料)

町立久万美術館

〒791-1205
愛媛県上浮穴郡久万高原町菅生2番耕地1442-7
Tel.0892-21-2881 Fax.0892-21-1954
<https://www.kumakogen.jp/site/muse/>

町立久万美術館 HP

